

# アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善とカリキュラム・マネジメントの充実のための今後の方略について

浜松学院大学 岩見良憲

- 1 「社会に開かれた教育課程」とAL、CMについて
- 2 「主体的・対話的で深い学び」について考える
- 3 特別支援学校におけるALの取組みと「主体的、対話的で深い学び」の読み取り
- 4 障害の重い子のAL
- 5 ALの視点に立った授業は、これまでの授業とどう変わったか

# 1 「社会に開かれた教育課程」とAL、CMについて

- 1-1 ALとCMを考え始めた時だから  
なぜAL、CMなのか、説明できるようにしておきたい。  
自分のことばで。

「社会に開かれた教育課程」とは

- ・学校教育を通じてよりよい社会を創り、教育課程を介して目標を社会と共有する。 ➡学校の目標、社会と共有
- ・*これからの社会を創りだす子どもに必要な資質・能力とは何かを教育課程に明確に位置づける* ➡学校が育てる資質・能力
- ・地域の人的・物的資源の活用、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携

## 1-2 資質・能力をめぐる動向 世界の動き

- 学校教育は、知識や技能、いわゆる内容の習得を最優先にしてきた。  
世界の動向は、学校教育は習得した知識・技能を自在に活用して質の高い問題解決を成し遂げ、よりよい人生を送るところまでを視野に入れている
- 学校教育は「何を知っているか」から、「何ができるか」「どのような問題解決をなしとげることができるか」に転換してきている。
- 学校教育は知識・技能の習得だけでなく、問題解決場面で効果的に活用する思考力・判断力・表現力、汎用性のある認知スキルにまで高めること、粘り強く問題解決に取り組む意志力、感情の自己調整能力、対人関係等の社会的スキルの育成にまで拡張と刷新が求められている。 奈須(2017)資質・能力と学びのメカニズム、東洋館出版

## 1-3 「社会に開かれた教育課程」を達成するために

- ①「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)
- ②「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義、教科等間・学校段階のつながりを踏まえた教育課程の編成)
- ③「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
- ④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」(発達をふまえた指導)
- ⑤何が身に付いたのか(学習評価の充実)
- ⑥実施するために何が必要か(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

中央教育審議会(2016)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方法について(答申), 21.

## 1-4 育成したい資質・能力

児童の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- 知識及び技能が習得されるようにすること。
- 思考力，判断力，表現力等を育成すること。
- 学びに向かう力，人間性等を涵養すること。

次期特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 総則第2節3

**Q1 アクティブ・ラーニングとは何ですか。わかりやすく説明してください。**

## 1-5 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 アクティブ・ラーニングとは

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、**あらゆる能動的な学習**のこと。

能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこに生ずる**認知プロセスの外化**を伴う。

溝上慎一(2015)アクティブ・ラーニングと教授学習パラダイムの転換, 東信堂

### ◎次期学習指導要領

第1章総則第4節教育課程の実施と学習評価

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

学習指導要領にはALの言葉はない。告示にカタカナ表記はしない、ALは多数の定義があるなどが理由。

## 1-6 「主体的・対話的で深い学び」とは

答申より引用

### ・主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次になげる「主体的な学び」が実現できているか

### ・対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

### ・深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか

Q2 カリキュラム・マネジメントとは何ですか。説明してください。

# 「主体的・対話的で深い学び」とは 富士特別支援学校平成28, 29実践研究から

## ①主体的な学び

- ・学ぶことに興味、関心を持っている。必要感や切実感がある。
- ・やることが分かり、粘り強く取り組んでいる。
- ・自分の学習活動を振り返り、次に生かす。つなげようとする。

## ②対話的学び

- ・子ども同士の協働がある。
- ・協働や対話を手掛かりに考え、自分の考えを広げている。

## ③深い学び

- ・教科、学習活動等の特質に応じた見方や考え方を働かせて、思考・判断・表現し、学習内容を深く理解している。
- ・学んだ知識をつなげて新しいものに展開させる。
- ・学びのよさを実感し、次の学びへの意欲をもつ。

「こんなやり方をすればよかった」  
「またやってみたい」  
「つぎはこうしたい」  
「どんな時に生かせるかな」



## 1-7 カリキュラム・マネジメントとは 教員一人一人が教育課程編成の主体

- 教員一人一人が、日々、教育課程の計画(P)、実施(D)、評価(C)、改善(A)を行っている。換言すれば、日々CMを行っている。

### カリキュラム編成の基本

- ・目標
- ・内容の組織(教科や領域、時数など)
- ・教授と学習の方法
- ・評価

Q3 日々の実践からわかった事柄をカリキュラム・マネジメントに生かしていますか。

## 【カリキュラム・マネジメント】

- 学校教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点**で、学校教育の達成に必要な教育の内容を組織的に配列
- **子どもたちの姿や地域の現状**や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクルを確立**
- 教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源等**を、地域等の外部の資源も含めて**活用**
- 児童、生徒の学習の成果を捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を教育課程の評価と改善につなげる

答申23-24、特別支援学校学習指導要領総則第1章第4節の1の(1)

## Q4 今なぜALなのか、CMなのか

- 自分なりのストーリーで相手の方に説明してみてください。  
資料を使いながらも結構です。

# H大学がめざす育てたい資質・能力、カリキュラム、受け入れ学生 3つのポリシー

本学は、「誠を興す」を**建学の精神**とし、専門的実務能力「能く生きる」と共生協調能力「善く生きる」を兼備する人を育成する**実学教育**を行っています。

## ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)

本学部は、以下に掲げる知識や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士(現代コミュニケーション)の学位を授与します。

- 1 高潔な倫理観に立って、他を思いやることができる**豊かな人間性**を身につける。
- 2 地域やグローバル社会に対応できる**幅広い教養**と専門的知識を活用して、**課題解決できる力**を身につける。
- 3 実践練磨の場における**共生協調能力**を身につける。

# カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学部では、実学教育を行う中で、以下の目標が達成できるようアクティブ・ラーニングに基づくDiCoResプログラムを中核とした教育課程を編成しています。

- 1 人を思いやることができる人間性を涵養し、責任をもって行動する力を修得する。
- 2 幅広い教養と専門分野に関する知識・技術を学修し、それらを活用して諸課題を解決していく判断力、創造力、実践力を修得する。
- 3 人々と活動する中で、多様なコミュニケーション能力を高め、リーダーシップを発揮する力を修得する。



確かな実践力を  
身につける!

ディコレス プログラム

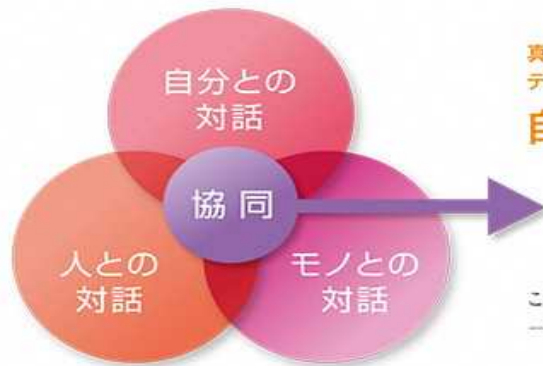
# DiCoRes Program

社会人基礎力の養成を基盤にしつつ、学生の実践力を継続的、体系的に養うために、  
カリキュラムの中心に据えて展開するオリジナルの実践力育成プログラムです。

本学の考えるコミュニケーション

## “責任ある対話と協同”

[ Dialogue and Collaboration with Responsibility ]



真摯に「自分」「人」「モノ」と向き合うことで、  
ディプロマポリシーに基づいて自身の役割を自覚し、

### 自分の責任を果たす!

こんな社会人を育成!

- 地域のニーズに応えることができる
- 時代のニーズに応えることができる
- リーダーシップがある

このプログラムで得られる力は、  
一人の社会人として求められる基礎的な力です。

# アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)

現代コミュニケーション学部では、建学の精神と教育理念に共鳴する以下の者を受け入れます。

- 1 大学での学修に相応しい基礎学力を有し、地域や世界の現状、あるいは保育や教育に関心をもつ者
  - 2 地域や社会の課題解決、発展に寄与することに使命を感じる者
  - 3 コミュニケーション能力の向上に意欲を持ち、創造性豊かで行動力のある者
- Q5 あなたの学校の学校教育目標をふまえたディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを説明してください。

# 1-8 ALやCMの校内の受け入れ状況は

## 予想される校内の状況

### 1 ALについて

- これまでやってきたことで何をいまさら
- 障害の重い子に主体的、対話的で深い学びのことは適さない
- 授業改善の視点に取り入れ実践している

### 2 CMについて

- 学級、学年ではカリキュラムについてはよく話している
- カリキュラムは理解できるが、マネジメントがよくわからない
- 個別の指導計画の評価は行っており、CMとの関連を模索している

Q6 校内のALとCMの受け入れ状況を教えてください。難しい場合には解決方法についても話し合ってください。



## 2 「主体的・対話的で深い学び」について考える

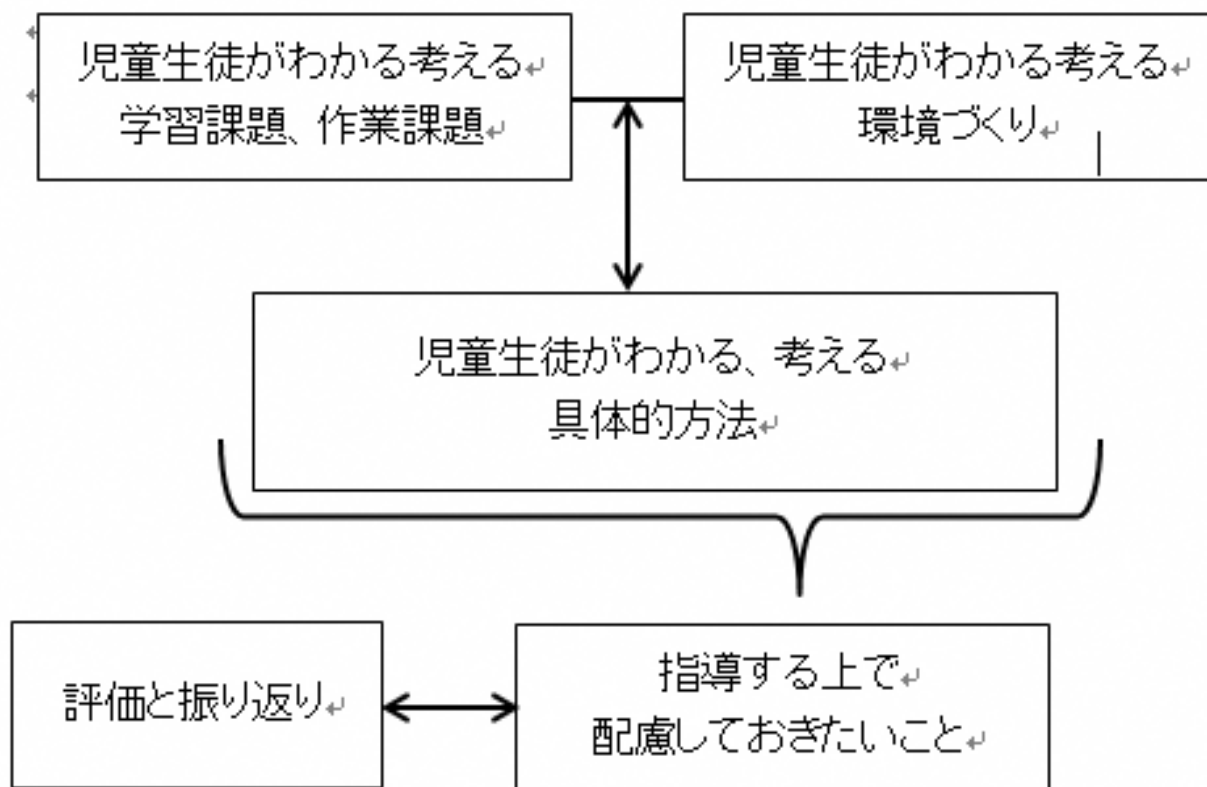
次期学習指導要領第4節教育課程の実施と学習評価、  
1「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 要約

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮する。

- (1) 児童又は生徒が各科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図る
- (4) 児童又は生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるよう工夫すること。
- (6) 児童又は生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童又は生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

### 3 特別支援学校におけるALの取組みと「主体的、対話的で深い学び」

#### 3-1 特支における 主体的・対話的で深い学び(AL)の 実際の取組みを鳥瞰する



資料 指導実践記録  
肢体3、知的6事例  
KJ方で分類、コード数161

#### 特徴

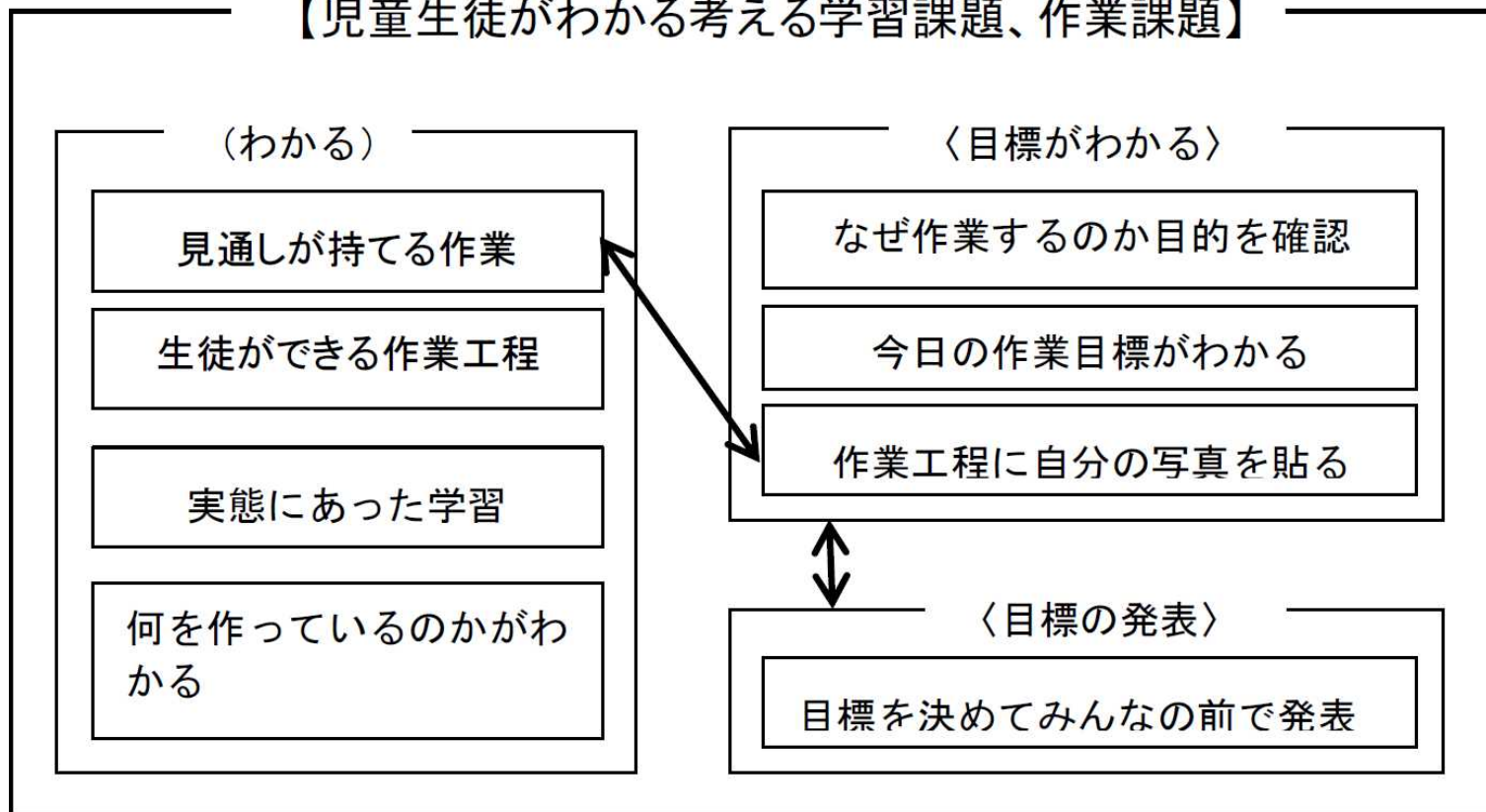
- ・わかる、考える学習課題、作業課題に注目する
- ・わかる、考える環境設定
- ・わからせる・考えさせる課題を事前に用意する

これまでの授業の立案にALの視点を織り込んだ。

岩見(2019)特別支援学校におけるアクティブ・ラーニング授業改善の実際と展望—。浜松学院大学研究紀要. 7

## 3-2 児童生徒がわかる・考える学習課題、作業課題の実践

### 【児童生徒がわかる考える学習課題、作業課題】



### 特徴

- ・児童生徒の実態に即し、何をしているのかが分かり、見通しがもてる学習課題や作業課題。
- ・目標や役割を時間をかけて理解させる。
- ・ことばだけではなく写真など視覚刺激を活用。
- ・発表活動を取り入れる。

### 3-3 児童生徒がわかる・考える環境づくり

#### 【児童生徒がわかる 考える環境づくり】

材料を生徒が集める

レジや品物などを設営

工程がわかる写真や図

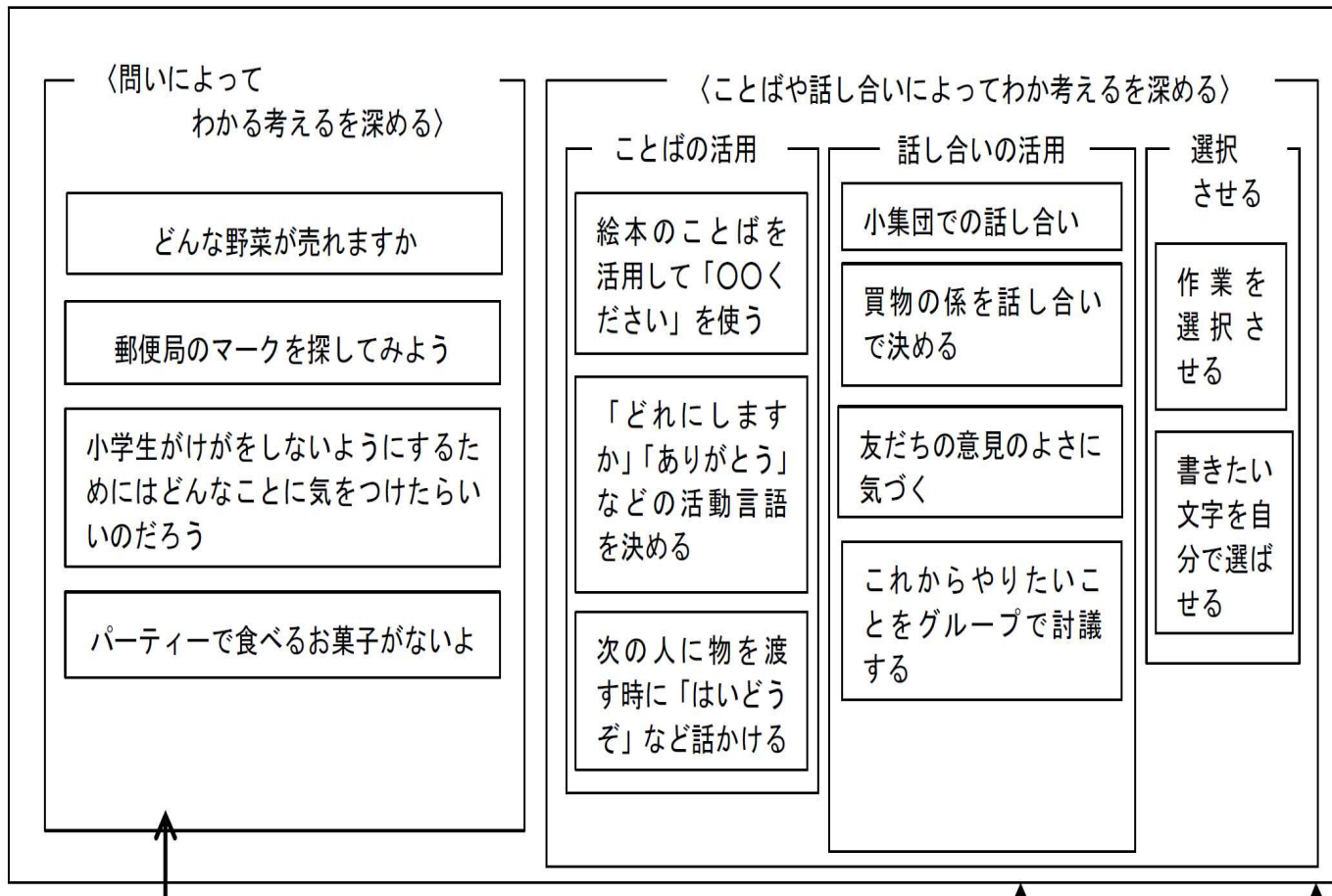
#### 特徴

・これまでも十分取り組んできた。

作業工程がわかる写真や図の提示などを活用。写真や図を見させて、どんなところに気を付けたらいいのかを考えさせる指導もあった。

・調べ学習なども行っており、特別支援学校は児童生徒が考える環境になっているかを改めて考えてみる。

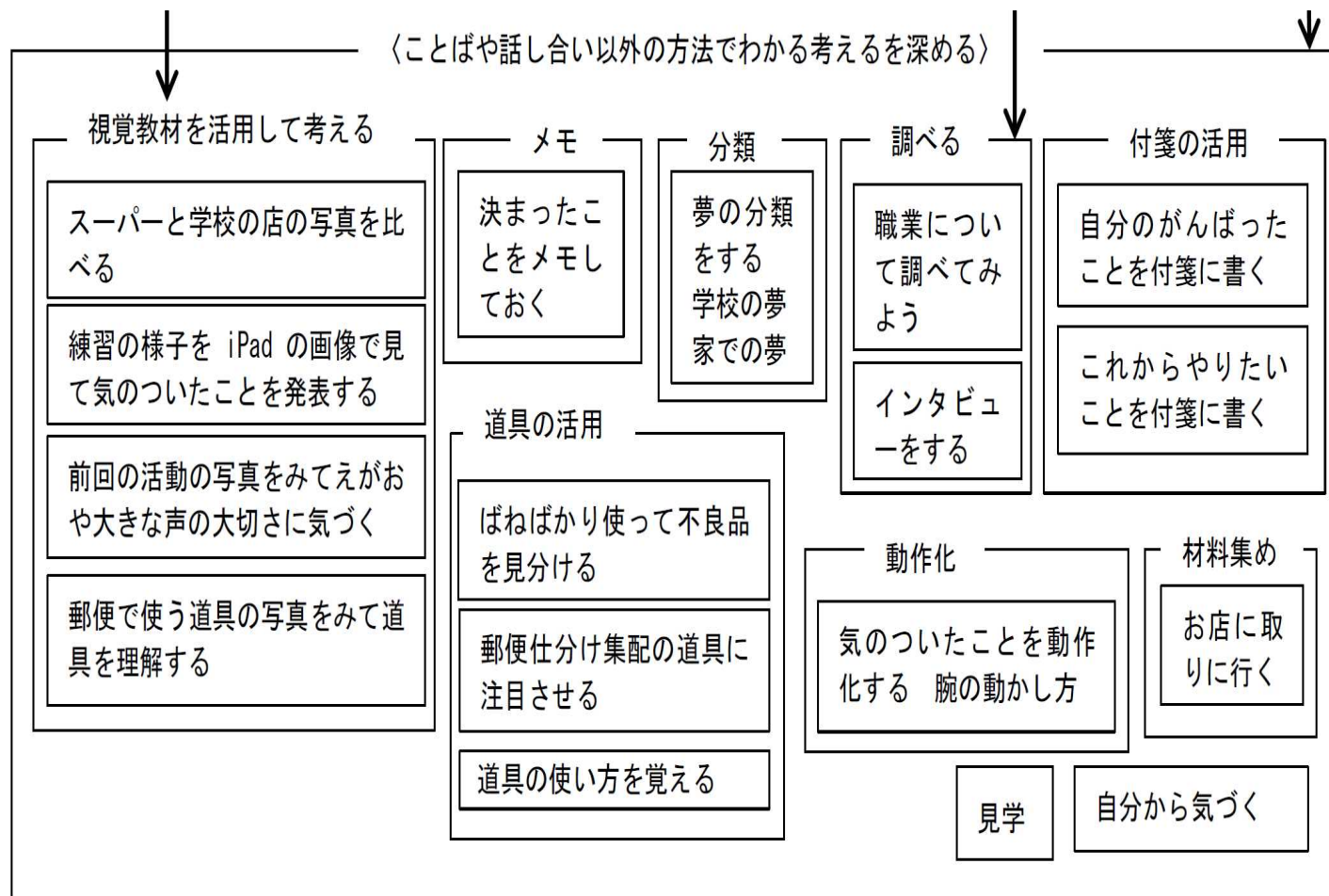
### 3-4 問いによって「わかる・考える」を深める実践 ことばや話し合いによって考えを深める実践



#### 特徴

- ・事前に時間をかけて、児童生徒の考えを深める主発問や問いを用意している。
- ・話し合いの場を意図的に設定したり、友達の考えと自分の意見を比べたりしている
- ・選択の場面も設定している。
- ・友達と話し合いたくなる場を設定していく。

### 3-5 ことばや話し合い以外の方法で分かる・考えるを深める



#### 特徴

- ・多種多様な方法を使って、思考を深める指導を行っている。
- ・今後は様々なアイデアを学年、学部、学校で蓄積する。
- ・話し合い以外の方法を用いて、深い学びができたかどうか、エピソード記録を残す。

## 3-6 指導する上で配慮しておきたいこと。評価、振り返り

### 指導する上で配慮しておきたいこと

態度の評  
価・発展

何を経験させたいかではな  
く何を身に付けさせたいか

行動がこど  
ものことば

### 評価・振り返り

できた紙を教師  
が即座に評価

担当した所を  
成果で発表

日誌や作品  
を評価する

### 特徴

- ・児童生徒の発達の変容を**態度で評価**することは大切なことである。その態度から、次の目標も考えることができる。
- ・行動を意思の表出とみることも大切である。
- ・結果について振り返り、発表されることで、自己評価の力が高められる。
- ・今後は児童生徒の気づきや態度をエピソードとして残す。
- ・授業改善の機会となった。

## 3-7 ALの視点をもった授業実践の記録から 1

- ・係の一覧表に自分の顔を貼って、何の係になったか確認した。
- ・昨年印象的だったことを思い出させ、意欲的に作業をした。
- ・看板に書きたい文字を考えて、挙手して教師に伝えた。
- ・教師が買い物の仕方をロールプレイで示し、イメージを明確にした。
- ・友だちの指の様子が見える場所で練習した。
- ・iPadで撮影した練習を見て、友だちのよさや気づきを発表できた。
- ・お客さんが喜んで買ってくれる野菜はどんな野菜か考えた。



## 3-7 ALの視点をもった授業実践の記録から 2

- ・「ケーキはどれくらいありますか」など自分で考えて話をした。
- ・毎回、作業目的を話し合った。
- ・授業開始のチャイムが鳴ると、自分で作業場に戻った。
- ・のりを出しすぎた友達に「出しすぎだよ。まあいいか僕が使う」と言っていた。
- ・学習の成果を○、△で評価し「頑張った」とほめられると喜んだ。
- ・友達と意見を交換をして、新たな考えを持った。

Q7 今回のあなたの取り組みで、主体的・対話的で深い学びを感じたエピソードを教えてください。

## 4 障害の重い子のAL

### 子どもの心の動きを現すことばを手がかりに

- ・楽しい、うれしい、好き、気持ちよい、満足、安心、おいしそう、納得
- ・もっとやりたい、すっきり、やったー、がんばる、やる気、
- ・いやだ、怒り、イライラ、疲れた、さわらないで、めんどくさい、いらない、  
わからない、どうしよう、迷い、嫌い

◎障害の重い子の指導では教師の読み取り、意味づけが重要(エピソード記述の活用)

- ①子どもの行動と働きかけ、あるいは指導内容との関係を考える
- ②子どもの行動と目標との関係を考える
- ③チームで子どもの行動の意味を共有し、効果のある指導、修正すべき指導を明確にしていく

参考 飯野(2010)障害の重い子どもの授業作り

鯨岡 峻 エピソードを通して支援とは何かを考える

[www.suisen.or.jp/i\\_support/siryoku\\_20080827.pdf](http://www.suisen.or.jp/i_support/siryoku_20080827.pdf)

## 5 ALの視点に立った授業は、これまでの授業とどう変わったか

【まとめ 主体的・対話的で深い学びの授業】

子ども主体の授業改善

授業のデザイン力を発揮した授業作り

子どもの主体性を引き出す教材

評価と関連した構造化された目標

発達の系統性を踏まえた指導内容

実践的指導力に裏打ちされた授業展開

専門的な力量に基づく意図的な指導

主体的・対話的な深い学びを生み出す支援

根拠に基づく骨格のしっかりした授業の基盤

- 学習指導要領
- 発達の観点

参考 飯野(2010)教師の授業づくり自己診断・自己評価シート、(障害の重い子どもバージョン)、障害の重い子どもの授業作り3、ジーアス社、

Q8 あなたは今回の取り組みで、授業が改善したと感じましたか。改めて、授業を問い直しましたか。

何が効果的だったと感じましたか。